

2008年3月31日

## ITスキル標準V3（バージョン3）について

独立行政法人 情報処理推進機構 IT人材育成本部  
ITスキル標準センター  
ITスキル標準改訂委員会

独立行政法人 情報処理推進機構(略称:IPA、理事長:藤原武平太)は、2008年3月31日より、「ITスキル標準V2 2006」の新バージョンとなる「ITスキル標準V3」をIPA ITスキル標準センターのWebサイト上(<http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss>)で公表します。

IPAでは、国際的な通用性などを踏まえながら、利用者の利便性が損なわれることのないよう、毎年10月に定期的なサイクルで改訂作業を継続していくこととしており、昨年取りまとめられた、経済産業省産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成ワーキンググループの報告書「高度IT人材の育成をめざして」(以下、産構審報告書)<sup>1</sup>に基づく対応、並びにプロフェッショナルコミュニティの改善提案<sup>2</sup>への対応を行っております。

今回公表するのは、ITスキル標準本体の「1部:概要編」、「2部:キャリア編」、「3部:スキル編」の一部です。複数の職種で専門分野を見直すとともに、レベル1、2の職種共通化を行ったほか、客観的な人材評価メカニズムの構築を可能にするため、ITスキル標準のレベル1～3の評価手段として情報処理技術者試験の位置づけを明確化するなど、前バージョン(V2 2006)から大幅な改訂を行っています。

なお、レベル4以上の評価に関しては、ITスキル標準の職種、専門分野と高度試験区分との対応づけを行い、2008年10月に改訂版を、その後、業務履歴を用いた職種毎の評価のための手引きを公表する予定です。

### 【改訂の経緯】

ITスキル標準は、経済産業省より2002年12月に公開された後、わかりやすさ、使いやすさを向上する観点で2006年4月にITスキル標準V2を公開し、以降改訂を重ねてまいりました。こうした中、2007年7月20日に産構審報告書が取りまとめられました。

ITスキル標準センターでは、産構審報告書の施策の具現化、並びにプロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案によるITスキル標準の内容充実を行うべく、「ITスキル標準改訂委員会」(委員長:有賀 貞一 社団法人情報サービス産業協会 副会長)を設置し検討を重ねた成果としてまとめたのが、今回公表する「ITスキル標準V3(バージョン3)」です。

<sup>1</sup>経済産業省産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成ワーキンググループの報告書「高度IT人材の育成をめざして」(2007年7月20日とりまとめ)：  
<http://www.meti.go.jp/press/20070720006/20070720006.html>

<sup>2</sup>プロフェッショナルコミュニティによるITスキル標準に対する改善提案：  
[http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/news/Profession\\_report2007.html](http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/news/Profession_report2007.html)

## 【ITスキル標準V3改訂の主要なポイント】

- レベル1、2の職種を共通化
  - レベル1、2の職種については、各専門分野の基礎的知識を共通化し、指標を統一しています。
- レベル評価手段として情報処理技術者試験の活用(レベル1～3)
  - 客観的な人材評価メカニズムの構築を可能にするため、ITスキル標準のレベル1～3の評価手段として情報処理技術者試験の位置づけを明確化しています。
- 専門分野の変更
  - プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、コンサルタント、ITスペシャリスト、アプリケーションスペシャリスト職種で専門分野を見直しています。

(1) レベル1、2の職種を共通化

レベル1、2の段階では、職種に特化した知識だけでなく、幅広い知識の習得を目指して欲しいという考え方から、レベル1、2の色を共通化しました。

◇ITスキル標準V3 キャリアフレームワーク

職種	マーケティング	セールス	コンサルタント	ITアーキテクト	プロジェクトマネジメント	ITスペシャリスト	アプリケーションスペシャリスト	ソフトウェア開発	カスタマーサービス	ITサービスマネジメント	エデュケーション	
専門分野	マーケティングマネジメント 販売チャネル戦略 マーケットコミュニケーション	訪問型セールスマン 訪問型セールスマン 訪問型セールスマン	インダストリー エデュケーション ビジネスソリューション	インフラストラクチャー インフラストラクチャー インフラストラクチャー	システム開発 システム開発 システム開発	クラウド クラウド クラウド	ネットワーク ネットワーク ネットワーク	ソフトウェア開発 ソフトウェア開発 ソフトウェア開発	基本ソフト 基本ソフト 基本ソフト	ハードウェア ハードウェア ハードウェア	運用管理 運用管理 運用管理	研修企画 研修企画 研修企画
レベル7												
レベル6												
レベル5												
レベル4												
レベル3												
レベル2												
レベル1												

(2) レベル評価手段として情報処理技術者試験の活用(レベル1～3)

情報処理技術者試験は、IT人材に求められる基礎的な知識だけでなくIT人材としての実務経験・実績に基づいた技能を問う試験として、情報サービス関連企業の多くで受験が奨励されるなど高い評価を得ています。

今般、情報処理技術者試験制度が改革され、共通キャリア・スキルフレームワークと試験との整合化が行われます。この結果、ITスキル標準の「スキル熟達度」の各項目に記述されたレベルごとの要件と、試験の出題にあたって想定している合格者の「知識」及び「技能」の水準とが整合されます。

これにより、レベル3以下の評価手段として試験を活用できるようになりました。これは、評価の透明性や客観性を高める取組みの第一歩として位置づけられます。

(情報処理技術者試験とITスキル標準レベル判定の関係については、別添の「ITスキル標準のレベル判定と情報処理技術者試験に関する整理」参照)

◇ITスキル標準に対応する情報処理技術者試験の人材像

レベル	ITスキル標準に対応する情報処理技術者試験	各情報処理技術者試験が対象とする人材像(業務と役割)
レベル3	応用情報技術者試験(AP)	基本戦略立案又はITソリューション・製品・サービスを実現する業務に従事し、 <b>独力</b> で役割を果たす。
レベル2	基本情報技術者試験(FE)	基本戦略立案又はITソリューション・製品・サービスを実現する業務に従事し、 <b>上位者の指導の下</b> に、役割を果たす。
レベル1	ITパスポート試験(IP)	職業人として備えておくべき、情報技術に関する <b>共通な基礎知識を習得した者</b> であり、担当する業務に対して情報技術を活用し、活動を行う。

(3) 専門分野の変更

プロフェッショナルコミュニティによる 2006 年度改善提案を受け、コンサルタント、IT スペシャリストについて、専門分野の再構成を行い、アプリケーションスペシャリストの専門分野「業務パッケージ」については内容変更を行いました。

職種	改訂内容
コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門分野「BT」「IT」を見直し、「インダストリ」「ビジネスファンクション」へ再構成</li> <li>専門分野「パッケージ適用」廃止</li> </ul>
ITスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門分野「分散コンピューティング」の廃止</li> <li>専門分野「アプリケーション共通基盤」の新設</li> </ul>
アプリケーションスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門分野「業務パッケージ」の内容見直し</li> </ul>

① コンサルタント

専門性の視点から整理し、得意な産業にフォーカスしている専門家と、得意な業務領域にフォーカスしている専門家という2つの専門分野に再編します。なお、「パッケージ適用」は、専門分野として独立せず、それぞれの専門分野の立場で、IT投資の助言の中でパッケージの選定やパッケージの評価などを担当します。

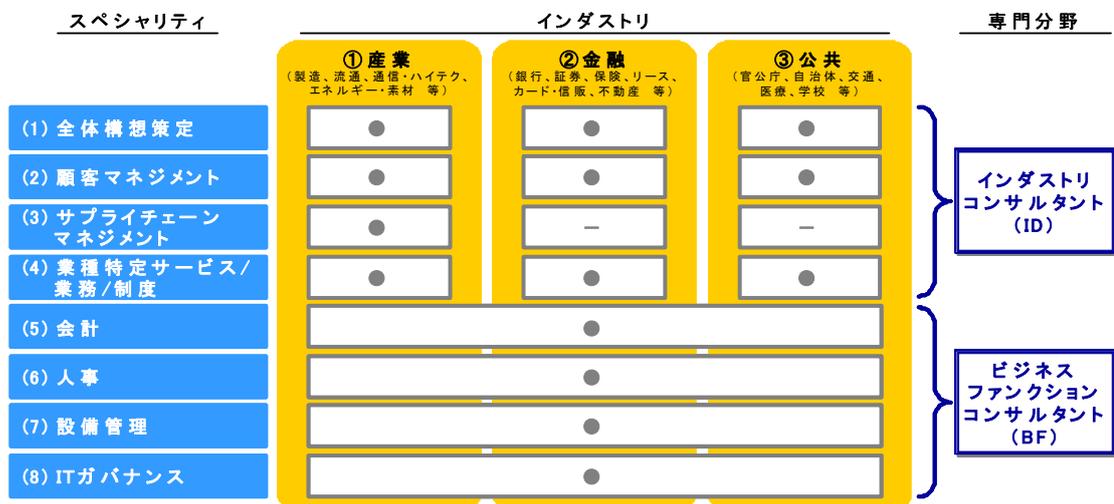
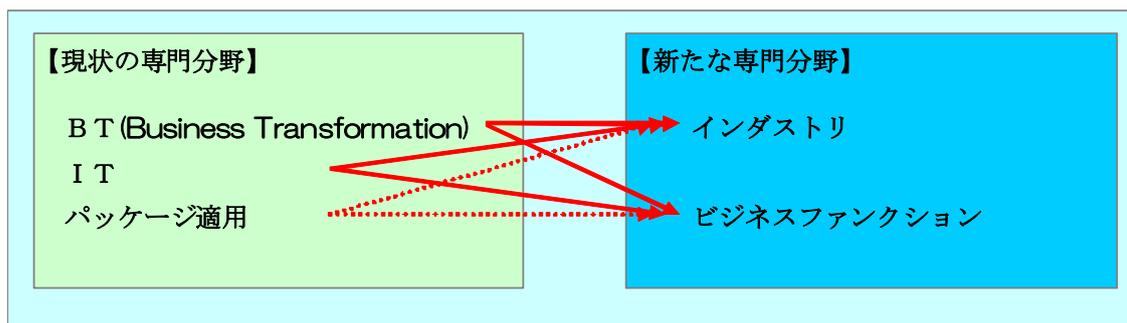


図 専門分野の定義イメージ

また、新旧専門分野の対応は次図のとおりです。



(注) 現状の専門分野を分析し、主たる関連を実線、従たる関連を点線で表す。

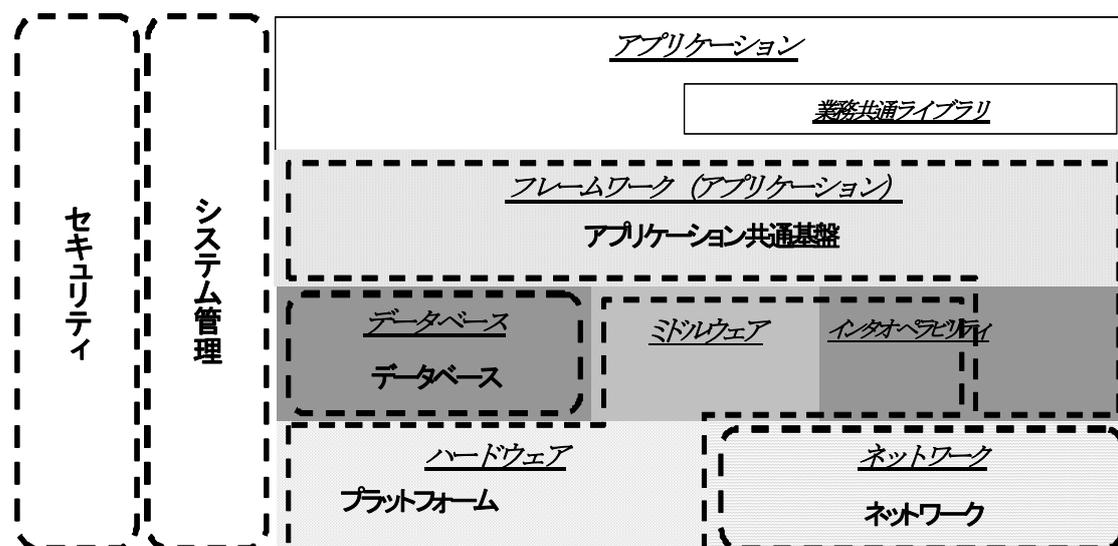
専門分野	専門分野の説明
インダストリ	インダストリに固有のスペシャリティを活用し、主に「IT中長期計画策定(経営/IT戦略の策定、IT投資意思決定)」の投資局面における分析および提言(助言)を通じ、顧客企業・法人における競争・サービス差別化の実現に貢献します。
ビジネスファンクション	全インダストリに共通した業務に関するスペシャリティを活用し、顧客企業・法人に対してコンサルティングサービスを提供します。

## ② ITスペシャリスト

ITスペシャリストの担う技術領域を、システム基盤のレイヤ構造に沿って整理し、専門分野と対応づけます。

これまでの専門分野でカバーしきれないアプリケーション共通の技術、具体的には、システムにあったアプリケーション共通基盤(フレームワーク、共通ライブラリなど)の設計と実装、開発環境の決定、構築、管理、を技術領域とする「アプリケーション共通基盤」を設定します。

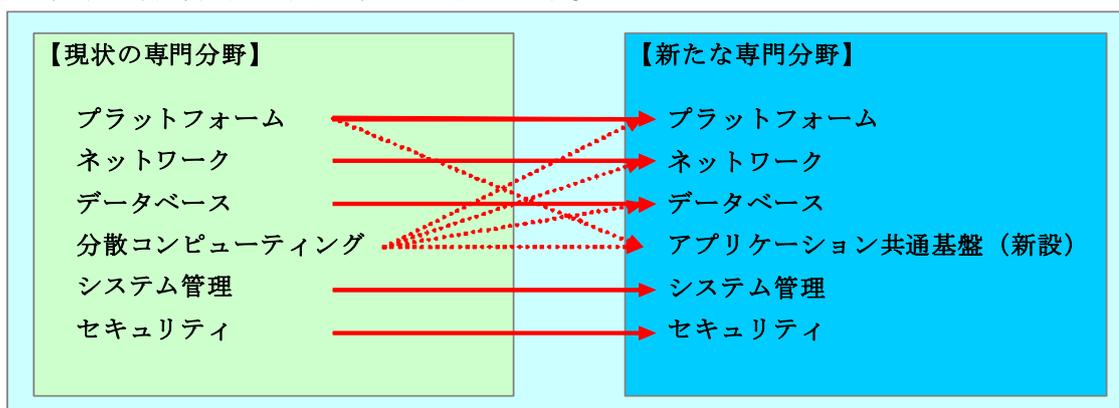
また、現在のシステム構築ではWebシステムの仕組みはよく使われるようになり、特別なものではなく、各技術分野のITスペシャリストの協業によりWebシステムの構築が行われるようになってきました。「分散コンピューティング」専門分野は、独立性が薄れてきているため廃止することにします。



(注) 図の中で「□□□」は専門分野を、「▨▨▨」は技術領域をあらわす。

図 専門分野と技術領域の関係

また、新旧専門分野の対応は次図のとおりです。



(注) 現状の専門分野を分析し、主たる関連を実線、従たる関連を点線で表す。

専門分野	専門分野の説明
プラットフォーム	ソリューションの基盤となるシステムプラットフォームの設計、構築及び導入を行う。 ここでのプラットフォームとは、ハードウェア、オペレーティングシステムや関連するシステムソフトウェア及びミドルウェアであり、システム開発、アプリケーション開発の前提となる基盤システムである。
ネットワーク	ネットワークの構成要素、ネットワーク網、キャパシティ、障害回避手段などの設計、構築及び導入を行う。
データベース	データベースの論理設計、物理設計、回復管理などの設計、構築及び導入を行う。
アプリケーション共通基盤	システムにあったソフトウェアアーキテクチャの設計やフレームワーク、共通ライブラリの運用/開発、導入を行う。また開発環境の構築、開発ツールの剪定/開発、導入を行う。
システム管理	ハードウェア、ソフトウェア、アプリケーションを含めたシステム運用、管理の設計、構築及び導入を行う。
セキュリティ	企業内、企業間で必要とされるセキュリティ機能、セキュリティのためのコンポーネントなどの設計、構築及び導入を行う。

### ③ アプリケーションスペシャリスト

コンサルタント職種の専門分野見直しを契機として、業務パッケージの責務と活動プロセスを見直しました。

パッケージ適用のためのアクティビティとタスクの整理を行い、IT投資局面と活動領域にマッピングをしました。その上で、パッケージ適用を専門分野とする当職種の責務と活動プロセス、必要なスキルを明確化しました。

なお、パッケージ選定、ビジネス要件の定義については、アプリケーションスペシャリストの参画する前段階のソリューション設計の局面までで確定しているものとし、アプリケーションスペシャリストは開発フェーズの最初のタスクとして詳細フィット&ギャップ分析を実施するところから主たる活動を行うこととなります。

IT投資の局面と活動領域 職種	経営戦略策定		戦略的情報化企画		開発		運用・保守	
	経営目標/ビジョン策定	ビジネス戦略策定	課題整理/分析 (ビジネス/IT)	ソリューション設計 (構造/パターン)	コンポーネント設計 (システム/業務)	ソリューション構築 (開発/構築)	ソリューション運用 (システム/業務)	ソリューション保守 (システム/業務)
セールス	目標/ビジョンの確認	ビジネス戦略の確認	ビジネス課題ソリューション提案					
コンサルタント	目標/ビジョンの提言	ビジネス戦略策定の助言	ソリューション策定のための助言 (パッケージ選定)	ソリューションの設計				
ITアーキテクト			ソリューションの枠組み策定	ソリューションアーキテクチャの設計 (業務プロセス定義 システム基盤設計)	コンポーネントの設計	ソリューションの構築		
プロジェクトマネジメント			プロジェクト基本計画の策定	プロジェクトの管理/統制	プロジェクトの管理/統制	プロジェクトの管理/統制	プロジェクトの管理/統制	プロジェクトの管理/統制
ITスペシャリスト				システム構築計画の策定	システム・コンポーネントの設計	システム・コンポーネントの導入構築	システム・コンポーネントの運用支援	システム・コンポーネントの保守
アプリケーションスペシャリスト				アプリケーション開発計画の策定	アプリケーションコンポーネントの設計 (詳細フィット&ギャップ分析/カスタマイズ設計)	アプリケーションコンポーネントの開発 (追加開発)	アプリケーションコンポーネントの運用支援	アプリケーションコンポーネントの保守
カスタマサービス					導入計画の策定	ハードウェアソフトウェアの導入	ハードウェアソフトウェアの保守	ハードウェアソフトウェアの保守
ITサービスマネジメント						運用計画/運用管理の策定	システムの運用と管理	システムの運用と管理

■ 主たる活動局面 □ 従たる活動局面

専門分野	専門分野の説明
業務システム	業務に関するユーザの要望を分析し、業務システムの設計、開発、運用、保守を行う。
業務パッケージ	適用業務パッケージの機能とそのポータビリティを十分理解した上で、業務に関するユーザの要望を把握し、パッケージのカスタマイズ、機能追加、導入及び保守を行う。

#### 【今後のスケジュール】

- (1) 2008年10月:「ITスキル標準V3 2008」公開予定  
 《改訂内容》
- ・ITスキル標準の職種、専門分野(レベル4)と高度試験区分との対応づけ
  - ・プロフェッショナルコミュニティ2007年度改善提言による改訂

※上記公開後、「社内プロフェッショナル認定の手引き」<sup>3</sup>を改版し、評価の手引きを公開する予定。

<sup>3</sup>「社内プロフェッショナル認定の手引き」は次のページからダウンロードできます。  
<http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/download.html>

ITスキル標準改訂委員会  
委員名簿

(五十音順 敬称略)

有賀 貞一 社団法人 情報サービス産業協会(JISA) 副会長【委員長】  
株式会社CSKホールディングス 取締役

神沼 靖子 学術博士 情報システム学会 理事

五味 利明 プロフェッショナルコミュニティ ITアーキテクト委員会  
富士通株式会社 インフラサービス事業本部 主席部長

嶋田 圭吾 プロフェッショナルコミュニティ アプリケーションスペシャリスト委員会  
株式会社クロスフォース 取締役副社長

島田 洋之 プロフェッショナルコミュニティ ITサービスマネジメント委員会  
東京海上日動システムズ株式会社 常務取締役

杉浦 昌 プロフェッショナルコミュニティ ITスペシャリスト委員会  
日本電気株式会社 IT戦略部(セキュリティ技術センター)  
シニアマネージャー

杉山 健 プロフェッショナルコミュニティ コンサルタント委員会  
アクセンチュア株式会社 官公庁本部エグゼクティブ・パートナー

高橋 秀典 特定非営利活動法人 ITSSユーザー協会 専務理事  
株式会社 スキルスタンダード研究所 代表取締役社長

田原 幸朗 社団法人 情報サービス産業協会(JISA)事務局次長 調査企画部長

角田 千晴 社団法人 日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)事業企画推進部長

橋爪 宗信 プロフェッショナルコミュニティ プロジェクトマネジメント委員会  
株式会社 NTT データ SI コンピテンシー本部 企画部長

平田 謙次 東洋大学社会学部社会心理学科 准教授 学術博士

村上 拓史 プロフェッショナルコミュニティ エデュケーション委員会  
日本ユニシス株式会社 人材育成部 HR 戦略推進室長

## &lt;オブザーバー&gt;

経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課  
社団法人 日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)  
独立行政法人 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター(SEC)  
独立行政法人 情報処理推進機構 IT人材育成本部 情報処理技術者試験センター